

—人と動物、環境の健康はひとつ— ワンヘルス推進宣言

北九州市医師会 会長 あない けんのう 穴井 堅能氏からの挨拶

北九州市医師会の穴井でございます。

我々、北九州市医師会では、健康診断などの健康推進をはじめとして、救急医療・高齢者医療・小児医療・介護対策・災害医療など、幅広い活動に取り組んでまいりました。

特に最近では、新型コロナウイルス感染症に対する対策として、発熱外来でのPCR検査体制・入院医療提供体制・宿泊療養や自宅療養などへのサポート体制・集団接種・個別接種による市民へのワクチン接種体制など、医師会を挙げて一丸となって取り組んでいます。

世界的に流行し、各国でパンデミックを引き起こしている新型コロナウイルス感染症も人と動物の共通感染症として認識されています。他に人と動物の共通感染症としては、ペストや狂犬病をはじめとして、エボラ出血熱、SARSやMERSなどの重症感染症もよく知られております。

これらの発生を抑えるためにも、人間だけではなく動物の健康も考え、生態系等の環境も整えていくなど密接に関連する一つのものとして捉えていく、すなわちワンヘルスという概念が注目されております。そして、『人・動物・環境の健全な状態を一体的に守っていく』のが『ワンヘルスの理念』でございます。

それらの取り組みを、医療・獣医療の垣根を越えて、横断的に一体的に取り組んでいくことが重要です。

5年前には、この北九州市で第2回世界ワンヘルス国際会議が開かれ、多くの国からたくさんの方が参加され、有意義な学術会議が開催されました。そして、福岡宣言が採択され、世界に向けてワンヘルスの重要性を発信いたしました。

このたび、北九州市において『ワンヘルスの理念』を共有し、感染症をはじめとした取り組みを、全市を挙げて行うということは、大変有意義であると考えます。

医師会としては、ワンヘルスを実践して、先進的モデル都市を目指す北九州市に賛同し、獣医師会と連携し協力していきたいと考えております。

最後に、ワンヘルスの更なる推進を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。